

# 国際コミュニケーション学科に於ける グローバルリーダーシッププログラムの開発

～活躍する社会人となるために～

## NJC GCD Global Leadership Program

- Developing social responsibility -

牟田 美信

キーワード

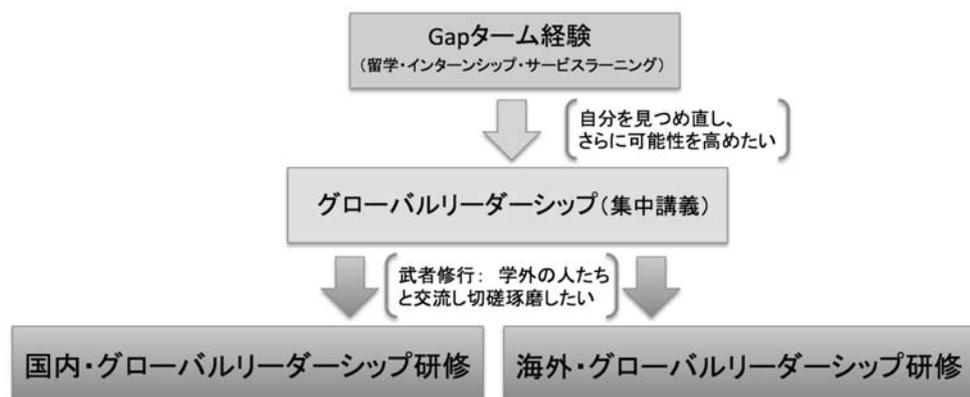
グローバルリーダーシップ、留学、キャリアプランニング

### 1 はじめに

国際コミュニケーション学科学生は、ギャップターム期間中（1年次8月～11月）に「3ヶ月留学」「短期留学」「国内有給インターンシップ」「サービスマーケティング」に参加している。

このギャップターム期間中の体験では、様々な知識や視野を広げることができると共に、短大での学びの中心である語学や異文化理解の力を醸成しており、また、さらなる学習への動機付けとなっている。そこで、この期間中に得た経験をベースに、さらに自分の能力を高めたいと考える学生を対象に、座学としての「グローバルリーダーシップ」集中講座に加え、国内（北海道）・海外（ニュージーランド）での「実践グローバルリーダーシップ」を実施した。

学内では、自分のギャップタームの体験を言語化し、クラス内での発表等を行って、学修したものの定着を図っているが、さらに、学修効果を高めるために、今年度は、北海道武蔵女子短期大学の学生との学術交流（プレゼンテーションやディスカッション）を実施した。今回は、これら一連のグローバルリーダーシップ養成プログラムについてまとめ、効果と今後の課題や展開を考えたい。



### 2 平成28年度実施のグローバルリーダーシップ育成の試み

平成28年度は、「GC Global Leadership Program in Korea」ということで、平成28年3月21日（火）から3月24日（金）3泊4日で韓国・太田と釜山で研修を実施した。

これは、自らの考えを（海外でも）発信できる力をつけることを目的に、韓国の「新羅大学」、「釜山女子大学」、「培材大学」において、各大学の学生によるプレゼンテーションとディスカッション、学生同士の交流を行った。また、韓国にある日系グローバル企業（山口銀行釜山支店）を訪問し、海外で仕事をすることや、現地での日韓交流に関して話しを聞き、意見交換を行った。試行的なプログラムだったが、学生からの振り返りから、

かなりの手応えがあった。(牟田、2016)

そこで、平成28年度よりさらに充実したプログラムとするために、平成29年度は、2月に集中講義として「グローバルリーダーシップ」という科目(2単位)を設定した。その中で、リーダーシップ、チームワーク作り、プレゼン内容充実とスキルの向上、自分のこれからのキャリアについて学び、考えさせた。

### 3 「グローバルリーダーシップ」集中講義

以下の内容で4日間の集中講座を実施した。特に、将来のキャリアを考えさせる目的で、卒業生3名に参加してもらい、受講者にそれぞれが従事している仕事内容ややりがいなどについて話してもらい、また学生からの様々な質問に対して答えてもらった。以下が集中講座の詳細である。

(概要)

- ・期間：2月6日(火)、2月7日(水)、2月8日(木)、2月9日(金)
  - ・2月6日(火) 9:50 集合 10:00 授業開始
  - ・教室： 第3合同 単位： (選択) 2単位 服装： 制服
  - ・16名 \*内、7名が後日北海道研修へ参加
  - ・授業目標：
    - ①グループプレゼンテーション：発信力、自分の意見の出し方、チームワークを学ぶ
    - ②個人プレゼンテーションで：卒業生、友人、先生と話し、自分の生き方を考え、今考えていることを人に語る
  - ・卒業生を交えての座談会：卒業生に学ぶ
- 「MNさん」(福岡、福岡空港グランドスタッフ、韓インターナショナルジャパン)  
「SYさん」(佐世保、旅行代理店業、株式会社エイチ・アイ・エス)  
「SKさん」(熊本県、フロント(中居)、黒川温泉山みず木旅館)  
(卒業生へ事前に考えてもらった事項) 自己紹介(出身地から、短大を卒業して今まで、転職等々なんでも)
- ・短大時代に頑張ったこと・思い出(頑張っていなかったら、それはそれで伝えてください)
  - ・今の仕事の内容(大変さ、やりがいを含めて)
  - ・社会人(仕事をするように)になって、学生とは何が違うと思うか
  - ・社会人になった今、学生時代にやっておいたほうが良かったと思うことは
  - ・今後は、何かやりたこと(チャレンジしたいこと)
  - ・短大1年を終えようとしている後輩へ、メッセージ(アドバイス)



「グローバルリーダーシップ力強化におけるプレゼンテーション」 プログラム

目的: 将来社会で活躍する「ワクワクできる社会人になるため」

	1 9:10~10:40	2 10:50~12:20	昼	3 13:10~14:10	4 14:50~16:20
2月6日(火)	(10:00開始) ★オリエンテーション 目的確認 Gづくり	1. 社会で活躍できる能力 ①自律性 ②相手視点と リーダーシップ ③巻き込み力 話し合いを促進する		2. プレゼンテーションとは 3. スキームをつくる (5W2Hで整理しよう) ①テーマに対して ・自分が訴えたいこと ・相手が聴きたいこと ②スキームを作る	
2月7日(水)	4. ストーリーをつくる ①ストーリー作成の考え方 ②心をつかむ導入 ③メインメッセージとサブメッセージを決める ④面白さと分かりやすさのポイント ⑤インパクトのあるまとめ			卒業生を交えて座談会(茶話会)	
2月8日(木)	5. 表現をデザインする ①プレゼンテーションの基本姿勢と動作 ②プレゼンテーションの話し方 ③表現力を高める/論理的表現 ④表現力を高める/情感的表現			6. グループ研究 テーマ例:「長崎短期大学自慢・長崎・佐世保紹介」 テーマ例:「ギャップタームの経験を交えて、 自分のキャリアプランニング」	
2月9日(金)	6. グループ研究			最終プレゼン	反省会

(集中講座後の学生のコメント: 北海道研修に参加した学生より一部抜粋)

Q1 講義への参加目的

- ・自分を変えたい。人前で話すのが苦手、積極性がない。積極性を養い、人前に出ることに慣れたい。
- ・北海道研修など、プレゼンする機会が沢山あり、プレゼンテーション力を高めるため。
- ・北海道研修を目前に必要な知識を得、経験を積むため。リーダーシップ力を身につけるため。
- ・北海道研修のためにこの講座を受講した。
- ・北海道研修や短大で行うプレゼンをよりよくするために。
- ・北海道研修に参加したかったため。
- ・今までとは違う新しい自分も見つけていきたいと思い参加しました。

Q2 講義で学んだこと

- ・プレゼンの仕方(大切なこと、やらないといけないこと)、分かりやすい伝え方(デザインすることの重要性)、リーダーシップの取り方(人任せにしない、メンバーに役割を与える、指示することの大切さ)。
- ・大事なことは話す内容、パワーポイントがなくても魅力的なプレゼンができること。リーダーシップという観点で終わりを決める大切さ。
- ・「面白きなき世を面白く」;自分に合った職業がある;日々キャリアアップを目指すことの大切さ;自分を振り返って反省してみるものの大切さ;失敗はいつになってもしてしまうが、その失敗から学び、生かすことが大切;自分のしたいことはいつまでも持ち続ける。
- ・自分のしたい・目指しているプレゼンテーションとは何かを明確にできた;自主性のある人間になったと思う;話す聞く姿勢や、話すときの印象の大切さを学んだ。
- ・発表の時、自信がなく、声が小さくなる;恥をすて、いかに成長できるか;恥ずかしがるより、思い切ってやるほうがいい!
- ・リーダーの役割(時間配分、意見の取りまとめ方など);プレゼンテーションでの話し方や作り方
- ・基本的な挨拶の仕方;できるまで続けること;口の筋肉を使うこと。

Q3 講義で苦労したこと

- ・声の出し方(先ずは声を出す)、声がでないのは自分に自信がないから、基本的なことが当たり前になるようになること。

- ・決められた時間内に準備やプレゼンを終わらせるマネジメント。
- ・自分の姿勢を意識しながらのプレゼン；時間のマネジメント；自分の考えをストレートに伝える方法；遠慮しないことを心がけること；聴きやすいプレゼンのためのスキムを組み立てること。
- ・意見が行き詰まったとき；意見が異なる相手にどう納得してもらうか、どう意見をとりまとめるか；誰が仕切るかで迷うとき；連絡不足のとき。
- ・恥を捨てること；大きな声を出すこと；自分の意見をしっかりと言うこと；笑顔でプレゼンすること。
- ・自分は遠慮しがちなので、その克服方法；間の取り方；指揮のしかた。
- ・大きな声で話すこと；グループワーク（個人で活動するのが楽で、グループワークがもともと苦手だった）

Q4 今回学んだ事を今後どのように生かしていきますか？具体的に記述してください。

- ・就活や仕事に就いたときに生かしたい。就活面接で自分のことを知ってもらうためのプレゼン。仕事を効率良く素早する。
- ・終わりを決める大切さ、時間内のマネジメント、個人に偏った負担がかからないようなマネジメント。
- ・今まで、人前に立って、自分の意見を言うときは、緊張に負けて表情がこわばって、伝えることを二の次に、間違えないことが勝ってしまい、形だけのプレゼンだったが、人に自分の言葉で自分の表現で自分のペースで伝えることがこんなにも楽しくて、素晴らしいものだとは分かっていませんでした。
- ・意見の出し方、取りまとめ方、発表の仕方；リーダーシップは、発揮できる場面ではしっかり発揮したい。
- ・これからの学校生活や就職活動で自分のプレゼンや発表が相手の心にインパクトを与えることが重要；大きな声で、余裕をもって、表情豊かにこの3つで頑張りたい。
- ・怖がらずに、遠慮せずに色々なことを自分から進んでやっていきたい。
- ・発表の時、緊張で声小さくなるので、恥を捨て、大きな声でみんなが聴こえるようにする。できるまでやり続ける：私は一度失敗するとすぐあきらめるタイプだったが、失敗しても何回も挑戦して、少しずつ自分を成長させたい。

Q5 その他、感想や意見など自由に記述してください。

- ・自覚していなかった部分など客観的に自分を見ることができた。精神的にも成長できた講義だった。
- ・リーダーの能力を持った人たちの集まりでも、一緒にグループワークをすることの難しさ。また、個人では絶対になし得ないような結果を生み出せるのもグループである。
- ・プレゼンテーションのことだけではなく、人として社会人としてのあり方や人前での自分の素敵な見せ方などたくさんを学んだ。就職活動で自分に足りないもの気づけた；自分をよく見せる方法を学んだ；自分の将来の職業に自身が持てなかったが、先生にその道のプロになるまで頑張ってみなさいと言われ、プロと名乗れるくらいの自信が持てるよう頑張ろうと思った。
- ・プレゼンをやるごとに多くの課題が見つかっていき嫌になるときもあった。本当にあがり症だったが、私の目指すプレゼン（皆が笑顔になってくれる）ができるようになった。新たな改善点が見つかったので、今後、実行と改善を繰り返しながら、人の心をつかむプレゼンをしていきたい。
- ・この4日間、本当にきつかったです。自分のプレゼンで褒められることよりも注意されることが多く、とても精神的に追い詰められるところがありました。でも、これからの自分に必要なことだと思うと先生にはとても感謝の気持ちでいっぱいです。プレゼンは自分をカッコよく見せるというよりは、自分のプレゼンを聞いて欲しいという思いでプレゼンすることがわかった。自分の考えを相手に伝えるのは難しいですが、伝えることができることも嬉しかったです。これからは、何事にも挑戦し、自分の限界を自分で作らないようにしようと思いました。
- ・北海道研修に参加したために、この講座に参加したが、とてもたくさん将来に生かせることを学ぶことができた。この4日間で成長できたところがたくさんありました。

- ・自分への課題がたくさん見つかる良い機会になった。アドヴァイスされたことを直し、今までの自分とは違う、新しい自分になっていけるようにしたい。

今回の集中講座は、プレゼンテーション作成、グループ活動をする中で、自分を見つめ直し、今後の成長につながるものであったように思われる。自分の強みや弱みを見つけ出すことにより、短大生活において目標を設定することができ、有意義なものになったようだ。加えて、仕事歴が3年～10年と異なる先輩の話聞き、意見を交わすことにより、学生自身のキャリアプランにとって大いに参考になったようだ。話をしてくれた卒業生自身も自分のキャリアの振り返りができ、貴重な体験になったと述べている。

#### 4 国内・グローバル・リーダーシップ研修

日本国内でも北（北海道）と南（長崎）という、互いに異文化ともいえる環境で生活する同世代の学生同士が、お互い主体的に交流することで、以下のことを醸成することを目的とした。

- (1) 目指すキャリアの面で視野を広げる
- (2) 豊かな人間関係を築く楽しさを感じる
- (3) リーダーシップを育成する

具体的には、本学学生7名と北海道武蔵女子短期大学の高橋ゼミの10名の学生が、お互いの地域の観光や文化、大学を紹介し、また、就職を控えた自分のキャリアプランを発表し、質問し、互いに学び、感じ、刺激を受け合った。はじめに、内田和男学長よりウエルカムスピーチと北海道や大学の概要の話から始まり、プレゼンテーションと交流会を行った。昼食では、学生達が北海道の伝統的な食事を料理し振舞ってくれた。その後、北海道で有名な菓子メーカ「白い恋人」で、共同でお菓子作り体験も行った。双方の学生にとって、将来の職業選択に関して、興味深い貴重な意見交換の機会となった。

##### （概要）

長崎短期大学・グローバルリーダーシッププログラム 2017

（北海道武蔵女子短期大学との相互交流キャリアアップ研修）

実施日：2018年3月12日（月）～3月15日（木）（3泊4日）

参加人数：合計20名

長崎短期大学 学生7名 教員2名 計9名；北海道武蔵女子短期大学 学生10名 教員1名 計11名

##### （日程）

3月12日（月）

長崎短大の行程 佐世保（9:00）→福岡空港（11:35）→新千歳空港（13:50）→札幌（15:00）→宿泊場所（15:30～）

→武蔵短大の学生さんと交流会（札幌泊）

(1) 武蔵短大→10時本学に集合、プレゼン準備等（333教室）15時頃本学出発

(2) 長崎短大・武蔵短大→16時頃から大通駅付近で歓迎セレモニーを開催

3月13日（火）

学術交流会 & 昼食（9:00～13:00）→学生主催の札幌観光案内（13:00～17:00頃）「白い恋火へ」

交流会内容（会場：武蔵短大 333 教室）

(3) 武蔵短大プレゼン（プレゼン30分程度）：武蔵短大の紹介（校舎ツアー含む）、北海道の紹介等

(4) 長崎短大プレゼン（プレゼン30分程度）：長崎短大の紹介、長崎・佐世保の紹介等

(5) 自分のキャリアプランニング（職、進路）について意見交換：学生同士の交流をメインに

(6) 12時から昼食準備（5号館厨房）：北海道の料理を用意します（ラーメン、ジンギスカン、ちゃんちゃん焼き）一緒に食事。

(7) 札幌観光（オススメの観光へ）：全員で観光

\*事後：このプログラムの感想レポートの作成、2年次ゼミでの発表会を開催する。大学間でレポートの交換、スカイプでの反省会等→次の展開への参考

3月14日（水）：スキー体験&観光地函館を視察

札幌→ オーンズ・スキー場（スキー体験）→ 函館へ（函館泊）

3月15日（木）

函館→ 新千歳空港（14:05）→福岡空港（16:40）



（長崎短期大学学生の実施後の声）

Q1 北海道武蔵女子短期大学学生との交流：「自分たちのキャリア（進路）」に関する意見交換で気づいたこと、感じたこと、学んだこと、参考になることなど、箇条書きで、自由に書いてください。

- ・1人1人がきちんと具体的な進路を見つけて、そのために必要な情報などを集めてしっかりと準備している見習いたいと思いました。
- ・武蔵女子短大のみなさんはほとんどの人が地元に残って仕事をすると言うことが多くて、地域に貢献したいという考えを持っていることはとてもいいことだと思いました。
- ・私は地元以外で就職したいと思っており、周りの友達もそうだったのでそれが普通だと思っていましたが、武蔵の学生は北海道から出て就職する人がいなかったの少しびっくりしました。ですが、逆に考えると地元を離れないで地元で貢献すると思うといいと思いました。なので、それを聞いて私も就職先の視野を福岡だけではなく沖縄も入れて視野を広げようと思いました。
- ・私は高校から、国際系にいたので、周りのみんなもだいたい同じ進路でした。だけど、北海道の方達の

話を聞いて、初めて聞く職業が沢山あり、私が当たり前だと思っていた、ホテル業や国際的な職業が出てこなくて、驚きました。

- ・私や私たちの周りは県外に出る人が多いけれど、北海道の方たちは北海道の地元に戻ったり、地元で働きたい人が多いんだなと思いました。
- ・私は今回、北海道の方達の進路を聞いて、私が見ている進路選択は視野が狭いということがわかりました。
- ・長崎の人間は県外に出たがるけど、北海道の人は地元で就職希望する人が多く、地元愛が強いのかなと感じた。
- ・長崎短大にいるときは、あまり感じなかったギャップを感じた。海外に行くことについての考え方、自分が目指す職業とは全く違う職業を目指しており、交流を通して視野が広がった気がする。

Q2 今回の北海道研修（白い恋人クッキー作り、スキー・スノボ、その他）で「よかった点」「改善点」を、箇条書きで、自由に書いてください。

- ・北海道の有名なお菓子作りの体験や雪のある地域ならではの体験などができて良かったです； 良かった点は、武蔵女子短大のみなさんが流れを作ってくださっていて、一人一人が武蔵女子短大のみなさんと楽しみながらコミュニケーションなどをとりお互いに仲良くなれたことがとても良かったなと思いました； 改善点は、すこし、武蔵女子短大のみなさんに任せきりなことかがあった部分もあったので、もう少し協力とかできたら良かったかなと思いました； 白い恋人パークで実際に白い恋人を作りながら武蔵の学生と交流できました； スキーは最初怖くて午前中は見るだけでしたが午後から友達がサポートしてくれてもっと滑りたいと思うくらい楽しかったです； 自分の改善点として、もっと学生と沢山の交流をして楽しい研修にすれば良かったです。
- ・白い恋人は北海道ならではの楽しかったです。
- ・スノボは九州に住んでいたら、する機会が少ないので、とてもいい経験になりました。初めてのことをするのは、怖いけれどとても楽しいです。
- ・ホテルが一人一部屋で、部屋も綺麗でとても良かったです。ホテルの場所も、周辺が色々あってとても良かったです。
- ・食事色々自分たちで決めれて良かったです。
- ・雪道を歩くのは普段体験できないことで、そこで、今まであまり喋ったことがない人とも喋れたので良かったです。
- ・白い恋人作り体験も北海道ならではの食材を使った昼食もとても良く準備されていて、感謝したいと思った； 交流の時間が短く、フォーマルな場での意見交換がほとんどだったので小さな班に分かれて街を散策しながら話すなどもっと、お互いに意見交換をしたかった； 貴重な体験をさせていただき、本当に楽しかったです。

Q3 (グローバル) リーダーシップを育てるために、「。。。などをする研修があるといい」などあれば書いてください。

- ・研修の期間をもう少し設けてもっと生徒同士の交流ができたらいいな、と思いました。今回は初めての北海道で、九州には経験できない体験や長崎短期大学とは違う短大の話や学部、授業内容なども聞けてとても楽しい研修でした。また、その地域ならではの飲み物や食べ物などもご用意していただきありがとうございます。とても美味しかったです。私自身多くのことが学べてこれからの進路に生かしたいと思います。今回はすてきな時間をありがとうございました。
- ・今回のように、あんまり人と接することが苦手なわたしが、このような研修を通して、女子短大のみなさんと楽しく話せるようになったという利点があったので、もちろん海外での研修もいいのですが、まずは日本を回ったりしてさまざまな人たちと交流して意見交換することも大切だと思ったので、わたし

は今回のような研修をもっと増やしていただくといいなと思いました。

- ・国内だけでなくアジア圏や英語圏などで行ってこんな感じの交流をしながら観光したいです。そして、自分の考えや他の人の話を聞きながら色々シェアしていきたいです。
- ・上にも書いたとおり、今回は20人でも多いと感じた。もっと、5～6人で活動する時間を作ったら良いのではないかと思う。
- ・向こうの大学生も交えて一緒に宿泊するとか、共同作業する何かがあったら、もっと深く意見交換でき、関係が深まるのではないかと思った。

今回の研修で長崎短大の学生が一番感じ（感謝）したことは、武蔵女子の学生達が“せっかく九州から来てくれる”ということで、私たちを迎えるために念位入りの準備をしてくれたことである。また、北海道のことや物を分かりやすく理解してもらうために、試飲や試食をプレゼンテーションに取り入れた手法も本学学生にとって新鮮であったようだ。

特に、将来のキャリア形成に関する発表や意見交換では、所属学部が異なることもあるが、北海道の学生がより国内（北海道）志向の進路を考えており、その理由も生まれ育った地元に戻り、貢献したいというものだった。今まで自分たちが持たなかった進路に対する考え方を知り、もう一度、自分の進路について深く考える機会になったようである。

今後の改善点としては、学生同士が接する時間が短かったので、合同宿泊での活動、またより深くコミュニケーションができるように小さなグループでの活動を増やすなど、今後の研修の改善点としたい。

同じ日本人でも、地域が異なることで、進路にたいする考え方が異なることなど、多くを学び刺激を受けた研修であった。今後、国内研修がより充実したものになるよう検討したい。

## 5 海外・グローバル・リーダーシップ研修

現在、以下の4人の学生が休学し、ニュージーランドにて3ヶ月の語学学校を終了し、有給でのホテルインターンシップに参加している。今回は、インターンシップに興味がある学生を含めた5人が、先輩の職場訪問を兼ねた海外短期研修に参加した。

KS君の近況: 現在、オークランドにあるGrand Millennium Aucklandで働いている。仕事開始1ヶ月間程度は、仕事内容をうまく理解できず、また要領も得ずに、仕事に対する上司の評価が低かった。しかし、今現在は、任された仕事をスムーズに行え、上司や同僚ともコミュニケーションが上手に取れ、評価が高くなったとのこと。今回は、担当者とは会うことができなかったが、ホテル側から頂いた(仕事に対する)評価も高くなっていた。住居費、食費など物価が高く、生活は大変だが、オークランドにも慣れて、充実した生活を送っているとのこと。日本にいる時よりも、自分の意見をきちんと述べるできるようになっており、KS君の成長を感じることができた。

YMさんの近況: 現在、ロトルアにあるSudima Hotel Lake Rotoruaで働いている。ホテルを訪問し、Harleen Gulati 料飲マネージャーと面会し、彼女の仕事の様子に関して聞いた。当日は、出勤日で、直接本人から話を聞くことができた。勤務当初は、仕事内容にも慣れてないこともあり、上手に仕事をこなせないこともあったが、仕事は的確で、遅刻欠勤も全くなく、ホテルに貢献してくれているとのこと。今後、学生を送るインターンシップに送る際は、ワインの基本的知識を学んでくると良いとのアドバイスももらった。本人も、ホテルの仕事にも慣れ、上司や同僚にも恵まれ、充実した生活を送っているとのこと。留学前よりも明確な目標を持てるようになっており、YMさんの成長を感じ取ることができた。短期研修に参加した学生は、先輩が実際に働いているホテルを訪問し、直接話も聞くことができ、自分たちの今後の留学やキャリアに関して参考になったようだ。

【KS - 9/9 出発】

語学学校：2017年9月11日～12月1日

The Campbell Institute (ウェリントン) インターンシップ：2017年12月3日～2018年6月30日

Grand Millennium Auckland (オークランド) / 部署：Housekeeping

【YM - 9/2 出発】

語学学校：2017年9月4日～11月24日

Waikato Institute of Education (ハミルトン) インターンシップ：2017年11月27日～2018年7月20日

Sudima Hotel Lake Rotorua (ロトルア) / 部署：Food & Beverage

【HI - 9/2 出発】

語学学校：2017年9月4日～11月24日

The Campbell Institute (ウェリントン) インターンシップ：2017年11月27日～2018年5月26日

Heritage Queenstown (クイーンズタウン) / 部署：Housekeeping

【SO - 9/16 出発】 語学学校：2017年9月18日～12月8日

The Campbell Institute (ウェリントン) インターンシップ：2017年12月11日～2018年6月15日

Kingsgate Te Anau (テアナウ) / 部署：Housekeeping



平成 29 年度 海外短期研修ツアー

渡航先：ニュージーランド 渡航期間：2月27日(火)～3月5日(月)6泊7日

(目的)

- (1) 日頃学んでいる英語を実際にニュージーランドで使ってみる。
- (2) ニュージーランド独特の文化を自然を見て、感じる。
- (3) 将来、ニュージーランドやオーストラリアなので勉強したり働いて見たい人が、先輩でインターンシップ

しているホテルを訪問し、話を聞く。

(4) 実際に海外の有名な観光地を訪れることで、日本との違いや日本での地域を元気にする活動に生かすためのヒントを得る。

(5) グローバルリーダーシップを身につけるために、海外で暮らすための感覚を身につける。

(旅行内容)

現在休学してニュージーランドで(語学学校)有給インターンシップをしている先輩を訪ね、話を聞き、今後の参考にする。また、車で有名な観光地を巡り、今後地域活動に活かせるヒントを探す。同時に、これから様々な国の人と仕事や生活を共にする機会が増える中で生きて行くためのグローバルマインドを育てる。

(旅程)

2月27日(火) 福岡(13:40) → 仁川ソウル(17:05) → オークランド(移動日) \*機内泊

2月28日(水) オークランド(8:15) \*市内散策 \*オークランド泊

3月1日(木) 「KS君」(Grand Millennium Auckland)を訪問 \*オークランド泊

3月2日(金) \*ロトルア泊

3月3日(土) 「ロトルア」マオリ文化見学ツアー

\* YMさん(Sudima Hotel Lake Rotorua)を訪問 \*ロトルア泊

\* Udimia ホテル Harleen Gulati 料飲マネージャーと面談

3月5日(月) 市内観光 \*オークランド泊

3月6日(火) オークランド(10:05) → (18:00) 仁川ソウル(18:45) → 福岡(20:00)(移動日)

『研修後の学生のコメント』

Q1 今回のニュージーランド研修で、「気づいたこと、驚いたこと、学んだこと」を書いてください。

- ・飛行機での外国人のマナーが悪かった； caféが多かった； 意外と住みやすい国だと思った； 空の色が綺麗だった； 飲食店の物価が高かった； お店が5時に閉まることに驚いた； トイレがどのお店にもなかった；温泉での水着にびっくりした；すこし日本より温度が低かった； インド系の人が多かった； 街を、すこし離れると貧富の差を感じた
- ・人種が様々； 高い建物が少なく視界が広い； 日本の事を知っている人が意外に多い
- ・フレンドリーな人が沢山いた； 横断歩道を斜めにも渡れて驚いた； 単語をもっと覚えようと思った
- ・自然が綺麗だった； インド人やベトナム人などアジア人が多かった
- ・日本は全体的にとっても綺麗で清潔だし丁寧だという事； 私達がどれ程恵まれた環境の国で育ったかという事； 果物や野菜、パン、カフェなどがとても美味しい！； 物価が高い； 日本製の車が意外と多かった； 日本以外の国は全て左車線と思っていたけど違っていた事； 買い物などに支障はなかったけど、もっと語学力があればもっと色々なことを聞いたり出来たと思う
- ・計画不足だった事； アジア系やインド系の人が多かった事； 店が夕方5時ごろには閉店する事

Q2 次回またどこか海外に行くとしたら、「こんなことができたらいいな」と思う事があれば書いてください。

- ・ハワイ 次は、自分で車なども借りてあてもなくドライブやご飯食べたりしたいです。まずは、ビーチで泳ぎたいですね！
- ・ミニホームステイ； 現地の大学訪問
- ・現地の日本語を勉強している学生と交流； 海でBBQやキャンプ； 日本でまだ公開されていない映画を観て日本と比べる！

Q3 その他、次回に向けての「改善点やその他コメント」があったら書いてください。

- ・次はスポーツや体を動かす機会を取り入れたら楽しいと思います！； 私もロトルアで乗った luge がすごく楽しかったので心に残っています！； 一瞬子供の心に戻れるのはいい体験でした！
- ・生活必需品は多めに持っていく（ティッシュやゴミ袋など）； ぐっすり寝る
- ・1週間という時間を無駄にすることなく、たくさんの場所をまわられてすごくいい研修でした
- ・事前に旅のプランニング（店、レストラン、観光名所、ホテル、空港）を十分にしておいた方がいい。どのくらい時間がかかるか、何時に起きるなど細かく決めて「しおり」でまとめるといいと思いました； 薬はいつもより多めに持って行くこと； クレジットであたふたしたので、行く人全員同じクレジットにした方がいいと思いました。それか事前にどうやってお金を出すかなど詳しく理解していた方がいいと感じました。

日本にも徐々に外国人が増加しているが、全員が初めての英語圏への渡航もあり、海外で多様な人達と会い、接することにより、お互いの類似や相違について改めて気づき、感じたようだ。特に、マナー、物価、ビジネスのやり方、何系の人が多いか、貧富の差、飲食物の違いなどである。また、自分たちがどれ程恵まれた環境にいるかも改めて気づき、語学力（勉強）の必要性も感じたようだ。

今後は、現地大学生との交流や、短期のホームステイなど、研修に組み込めるかなどを検討したい。また、学生による、より深い事前の渡航先調査やしおりの作成などを改善点としたい。

## 6 課題と今後の展開について

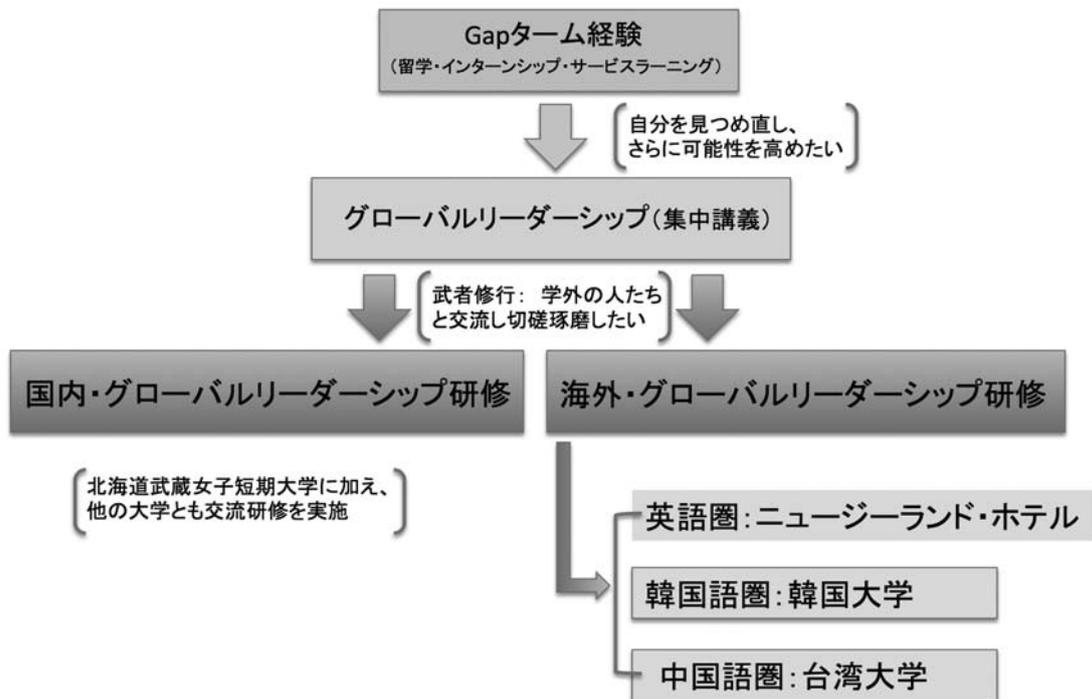
今回、北海道武蔵女子短期大学での「国内・グローバルリーダーシッププログラム」は、初の試みということで、内容を含めて手探りでの実施だった。学生全員が、気づきや学ぶことが多かった研修になったと思う。今後、学生同士の交流が密になり、さらに深く交流できるように、合同での宿泊研修を実施し、ディベートなども取り入れた内容を考えていきたい。

「海外・グローバルリーダーシッププログラム」に関しては、今後、学生が興味ある英語、韓国語、中国語、それぞれに焦点をあてた、言語別の海外短期研修を計画し、実行したい。韓国の場合は、昨年実施したように、姉妹校と連携して、学生同士の交流を実施し、韓国人学生との合同宿泊や企業訪問等も実施したい。

今回のニュージーランド研修は、現在インターンシップをしているホテルを訪問し、見学するのみだったが、来年度は、発展系として、ホテルで、学生が日本のホスピタリティや日本人客に対する接客マナーなどについて、スタッフにプレゼンを実施したり、現地ホテルスタッフによるニュージーランドのホテル事情についてのレクチャーなどが可能かどうかを検討中である。また、他国の若者と触れ合う機会を設けるために、多様な国の若者が多数滞在するゲストハウス宿泊体験等を組み込んだユニークなものを考えたい。

中国語に関しては、来年度新たに、台湾の大学と中国語を使ったユニークなグローバルリーダーシッププログラムを構築したいと考えている。

それぞれの講座や個々の国内外の研修内容を見直し、充実したものにし、より効果的な学びができるように研修プログラムを構築していきたい。



参考文献

中島峯雄 (2012) 『企業・大学はグローバル人材をどう育てるか』 アスク出版

牟田美信 (2014) 国際コミュニケーション学科でのグローバル人材要請教育の試み、長崎短期大学研究紀要、26, 1-6

牟田美信 (2015) 短大におけるグローバルマインド育成、長崎短期大学研究紀要、27、107-113

長崎短期大学研究倫理委員会承認【第1811号】